

一月二八日
Sunday

EUGENE (ユージーン) のザ・シークレット・ガーデンという名のホテルに帰り着いた。講義とクリティックを各一回行えば良い楽なスケジュールだと考えていたら大間違い。消耗し切つてやっと最終日に辿り着いたの実感である。オレゴンの五日間はハードだった。二六日のレクチャーは通訳なしで少々心配だったが、何とかやってしまった。ホールはほぼ満員で反応は良かったように思う。

ループル美術館、グッゲンハイム美術館、バウハウス大学と海外で講演会をやってきたけれど、初めて通訳無しでやってしまったので、一番親近感があったのかも知れない。しかしながら、オープンテックノロジーというロジックはもう少し解りやすく説明する道具が必要だろう。ロジックを構築するのならば英語圏で通用しないと意味がないから。

しかし、今考えているロジックがアジア圏で通用するかと自問すれば、これは仲々に困難だ。四月の台湾中原大学での講義は少し考え直した方が良くも知れない。時差ボケで今は夜中の二時半。人体に時差ボケがあるように、地球にだって時差ボケはある。近代化の最中のアジアで開放系技術という、言ってみれば近

代以降の社会を想定しようという理論が通用するのか。もう大分昔になってしまったが、磯崎新と北京人民大会堂で講演して、シンポジウムを持った事があつたけれど、今振り返ればあれは冒險だった。人民大会堂で毛沢東とミッキーマウスを同じに論じようとする磯崎の隣にいたんだから。良く帰国できたと思う。オレゴン大学で北京を思い返すことができるのも旅の余禄だろう。二七日は早朝から、アレキザンダーの住宅、チャールス・ムーアのキャンパス施設を見て、ポートランドへ三時間位の車の旅。途中で、アルヴァ・アールトの図書館を見学する。アレキザンダーの住宅、ムーアの建築、共にモダンデザインの流れから逸脱したモノだが二一世紀になって、彼等の仕事の本格的に見直される機会と見直す事ができる人物に再会する事ができるのだろうか。

一緒に論じる事は困難だけれど、要するに普通の人間のデザイン意識の問題への関心であつたと解釈すれば、再評価の径が開けるように思うが、どうだろうか。

アールトの建築の内部は光のコントロールも細部も安定感があつて流石だが、何か、私達の現代とは遠いところで物事が考えられているような気がする。丘の上の修道院の中の建築だからかな。しかし、光の扱いは学ばなくてはならない。

ポートランドに着いてマイケル・グレイブスの市庁舎を見る。これも又、デザインと大衆を考えた末の建築だが、見る影もない。バウハウスのモダンデザインにはすでに限界があるのだが、このスタイルではむしろ後戻りであつたの印象しか無い。その後に見た倉庫のリノベーションの仕事は良かった。広告代理店のオフィスのようなのだが、会社自体の豊かさが内部に溢れている。あんまり好きなフィーリングではないが、良いと思つた。広告代理店の豊かさと言う、現代の奇妙さが良く表現されている。こん

なにアブック銭がかせげるのか広告屋は、という感じ。

ポートランドに一泊して二八日はオレゴン州の西海岸を走り、又、ユージーンに戻った。夜、ニュート宅でマイケル教授、チャーリーブラウン教授とディナー。

沢山の人に会ったが、又、お目にかかれる人がどれ程居るだろうか。一日一日を精一杯やっているけれど、できる事には限りがあるのを痛感する。

メを過ぎた原稿も結局書けなかった。残念だが、このスケジュールでは無理だ。

明日は七時にケビンがホテルにピックアップにやってきて、ユージーン空港へ、プロペラの小型機でシアトルへ、乗継ぎで、東京へ帰る。帰れば、原稿地獄だが、仕方ない。

ただ今、朝の三時四十分。これ迄は何とか時差をゴマ化してきたが、四日目にして完全な不眠状態がやってきている。世界を駆けるのは向いていない体力なのを痛感する、春からヨーロッパへも何回か出掛けなくてはならぬ、スケジュールが組まれているが、もう止めちまうかと反省している。やるなら、徹底してやらなければ意味がないが、東京にジーツとしていたる事の意味も考えた方が良くも知れない。何しろ、私はジェット機には向いていない。

眠れそうにないので、風呂に入ってみることにする。食べて、眠らなければ人間は今のところ生きてはいけないのだから、大して進化してネエーなと思う。

こりや、今日のシアトルの乗継ぎ待ちは、散々だぜ。帰りの飛行機は悪いけれど、眠って帰ることに決めた。原稿何本残ってるのか、考えない事にしよう。

できないものは、できないのだ。

風呂から出てはまだ朝の四時チョイ過。まったく眠れない。眠れないという事だけで妙に人生に悲觀的になっている。我ながら小者である。情ない。二川幸夫はあれだけ世界を飛び歩いて、全く時差が無いと豪語しておったが、アレは化物かも知れない。磯崎も外国を飛び廻っている時の方がイキイキしているのを実見しているから、化物だろう。

化物、怪物の類には用心しなくてはならない。全く眠気がやってこない。無念だ。

そんなわけで、只今六時三〇分。荷造りも終えて、ボー然としているのである。シアトルにはフランク・O・ゲリーのジャニス・ジョップリン・ミュージアム？が完成している筈だが、こんな体調では三時間の乗継時間で見に行く元気も無いだろう。東京までひたすらジーツとしているしかない。

ただただハードな五日間であった。